

## 琵琶湖(湖心部)の水質概況速報(令和元年度(2019年度)第2四半期)

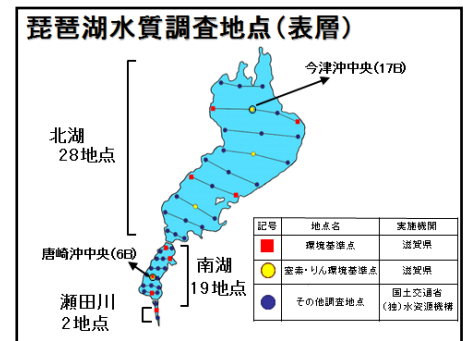
琵琶湖環境科学研究センターでは、水質汚濁防止法第16条の規定に基づき作成した公共用水域水質測定計画等に基づき、琵琶湖および瀬田川で採水、水質分析を実施しています。このたび、北湖・南湖各一地点における令和元年度第2四半期分の水質概況速報をとりまとめましたので報告します。

なお琵琶湖・瀬田川水質は北湖28地点、南湖19地点および瀬田川2地点の計49地点において、年間を通した解析により正式な評価を行うため、ここで公開する速報値は平均値等の代表値とは異なること、後日修正を加えられる可能性があることをご承知おきください。

### ◎調査方法について

琵琶湖・瀬田川の上記49地点において、国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所、(独)水資源機構および当センターで協力、分担し、表層0.5mでの毎月の水質変動を調査しています。

また、琵琶湖の水深別調査は、当センターにおいては今津港と長浜港を結ぶ線上のほぼ中央の水深約90m地点今津沖中央(通称「17B」)、他1地点、南湖では唐崎沖中央(通称「6B」)において、月2回実施しています。



### ◎調査結果について

当センターで分担実施している北湖湖心部の今津沖中央(17B)、南湖湖心部の唐崎沖中央(6B)のそれぞれの経月変化からみる令和元年度第2四半期の水質概況は次のとおりです。

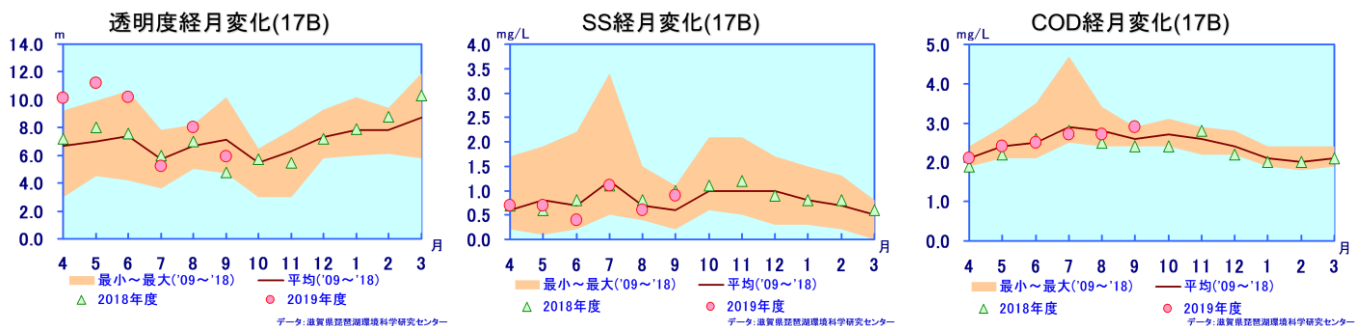
### ○今津沖中央(17B) 調査結果

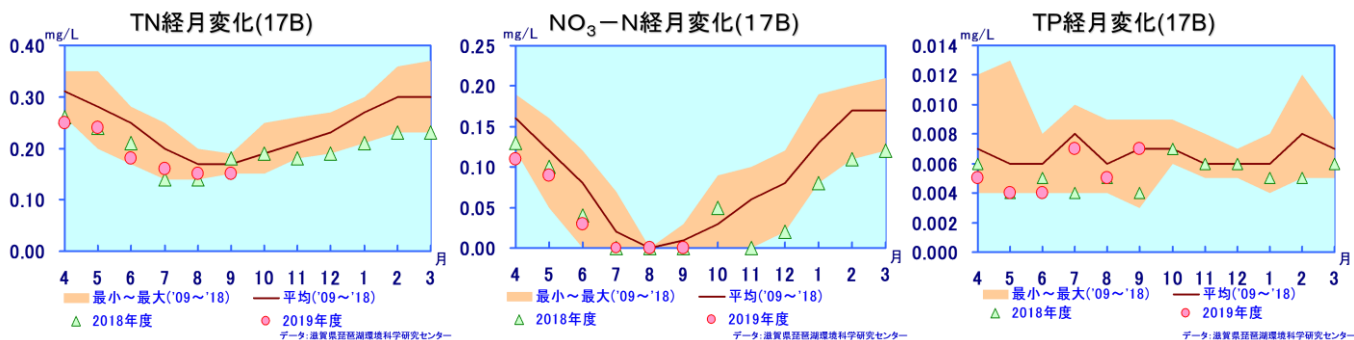
透明度については、7月は過年度(過去10年間)平均値並みの値となり、8月は過年度最高値並みの値(8.0m)となり、9月は過年度平均値を下回る値となりました。透明度に関連する浮遊物質量(SS)は、7、8月は過年度平均値並みに推移し、9月は過年度平均値を上回る値となりました。

有機汚濁の指標である化学的酸素要求量(COD)は、7、8月は過年度平均値並みで推移し、9月は過年度最高値並みの値(2.9 mg/L)となりました。

富栄養化項目については、全窒素(TN)が、今年度も引き続き低い状況が続き、7、8月は過年度平均値を下回る値となり、9月は過年度最低値並み(0.15 mg/L)となりました。全窒素の一部である硝酸態窒素(NO<sub>3</sub>-N)については、7~9月には枯渇した状態になりました。全りん(TP)については、7、8月は過年度平均値を下回り、9月は過年度平均値並みで推移しました。

以上のように、北湖の今津沖中央においては、9月に過年度平均値と比べて透明度について値の低下が、SS、CODについて値の上昇が見られました。これは、8月下旬の降水量の増加によりSSや有機物を含む濁水が河川から流入し、透明度やCODの値に影響したものと考えられます。





### ○唐崎沖中央(6B)調査結果

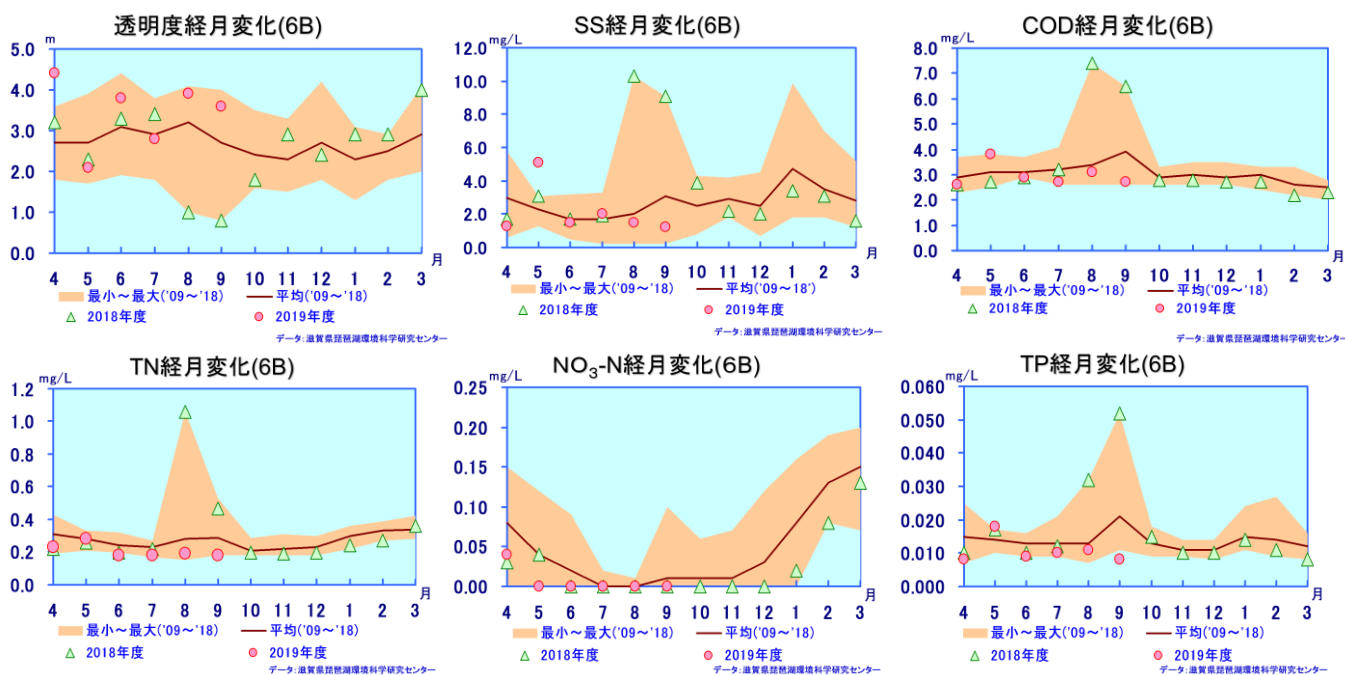
透明度については、7月は過年度平均値並みの値、8月は過年度最高値並みの値、9月は過年度平均値を上回る値というように推移しました。透明度に関連するSSについても、7月は過年度平均値並みの値となり、8、9月は過年度平均値を下回る値というように推移しました。

CODについては、7、9月は過年度最低値並みの値で、8月は過年度平均値を下回る値で推移しました。

全窒素(TN)については、7~9月は過年度最低値並みの値で推移しました。硝酸態窒素(NO<sub>3</sub>-N)については、7~9月は枯渇した状態になりました。

全りん(TP)については、7、8月は過年度平均値を下回る値となり、9月は過年度最低値を下回る値(0.008 mg/L)となりました。

以上のように、南湖の唐崎沖中央においては、昨年度の8、9月のような水質の悪化が今年度は見られませんでした。これは、昨年度は7月後半から9月にかけて植物プランクトンが大量増殖し各項目に影響を与えたのに対して、今年度は植物プランクトンの大量増殖が起らなかったことによるものと考えられます。



《問い合わせ先》 〒520-0022 大津市柳が崎 5-34

滋賀県琵琶湖環境科学センター環境監視部門 公共用水域係

TEL:077-526-4255 FAX:077-526-4803

E-mail: [de51400@pref.shiga.lg.jp](mailto:de51400@pref.shiga.lg.jp)